

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第1項に基づく

教育委員会の点検・評価

(平成25年度対象)

平成26年7月

富津市教育委員会

目 次

I. はじめに

- 1. 点検・評価制度の概要について 1
- 2. 教育委員の活動状況 2

II. 点検・評価

- 1. 学校教育の充実 4
 - (1) 庶務課の取り組み 5
 - 教育かわら版の発行（教育部全体での取り組み） 6
 - (2) 学校教育課の取り組み 7
 - (3) 教育センターの取り組み 9
 - 外部評価者による評価 11
- 2. 生涯学習の充実、青少年健全育成の推進、文化・芸術活動の推進、
文化財の保護と活用 12
 - (4) 生涯学習課の取り組み 13
 - (5) 中央公民館の取り組み 15
 - (6) 富津公民館（埋立記念館を含む）の取り組み 17
 - (7) 市民会館（峰上公民館を含む）の取り組み 19
 - 外部評価者による評価 21
- 3. スポーツ・レクリエーションの振興 22
 - (8) 体育振興課の取り組み 23
 - 外部評価者による評価 25

I. はじめに

1. 点検・評価制度の概要について

(1) 趣旨

教育委員会制度は、合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本の方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な具体の教育行政事務を執行するものです。

このため、事前に立てた基本方針に沿って具体的な活動が展開されているか、教育委員会自らが事後にチェックするとともに、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進することが求められています。

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）に基づき、平成25年度の富津市教育委員会に属する主だった事務の管理執行状況について報告するものです。市民の皆様にご教育委員会が行っている日常の業務を知っていただき、一層の御支援を賜りたいと考えています。

本報告書については、過去に次のようなご指摘をいただくことがありました。

- ・前年同様の表現が多く、報告書作成が目的化していないか。
- ・ページ数が多く、また文章表記が中心で読みにくくわかりにくい。
- ・他自治体の例等も参考にしたらどうか。 等

そこで平成24年度版では、市民にわかりやすい報告書にするため、主に以下の点について改善し、その結果、ページ数も従来の半分弱になりました。この平成25年度版も同様の考え方でまとめてあります。

- ・市全体の施策との関係を明確にするために、報告書の構成を平成23年3月策定の「富津市第3次基本計画」に近づける。
- ・「富津市第3次基本計画」と、同じく平成23年3月策定の「富津市生涯学習推進計画」で示した施策目標に対する到達点を明らかにする。
- ・担当課による評価シート方式を取り入れ、毎年行っている事業等は思い切って省いて年度の特徴的な取り組みを簡潔に記載するなど、わかりやすさを重視する。

(2) 学識経験者の知見の活用

点検・評価について客観性を確保するために教育に関し学識経験を有する方2名の意見を伺いました。学識経験者の評価と意見は、各課等の最後に記載しています。

(3) 評価については、3段階（A・B・C）で表わしています。

A：施策目的の達成に向けて順調に進んでいる

B：施策目的の達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある）

C：施策目的の達成に向けて困難な課題がある

2. 教育委員の活動状況

富津市教育委員

平成26年3月31日現在

職 名	氏 名
委 員 長	小 坂 洋 子
委員長職務代理者	宮 田 賢
委 員	榎 本 純 子
委 員	池 田 亨
教 育 長	渡 辺 隆 二

(1) 定例会議等

- 4月25日 ・富津市社会教育委員の委嘱について
・富津市公民館運営審議会委員の委嘱について
・義務教育諸学校（市立小学校及び中学校）の教科用図書の取扱い方針を定めることについて 等
- 5月30日 ・富津市学校給食運営委員会委員の委嘱及び任命について
・富津市社会教育委員の委嘱について
・富津市文化財審議会委員の解職について 等
- 6月27日 ・富津市生涯学習推進協議会委員の委嘱について 等
- 7月 2日 ・富津市教育委員会委員長の選挙について 等
- 7月25日 ・教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について 等
- 8月29日 ・富津市一般会計予算教育費歳出9月補正予算について 等
- 9月26日 ・富津市私立幼稚園就園奨励費補助金交付規則の一部を改正する規則の制定について 等
- 10月31日 ・報告事項 等
- 11月28日 ・富津市一般会計予算教育費歳出12月補正予算について
・富津市都市公園、市立公園及び体育施設の指定管理者の指定について
・富津市体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
・富津市公民館及び市民会館の設置及び管理等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
・富津埋立記念館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について 等
- 12月20日 ・富津市体育施設の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について
・富津市教育委員会被表彰者の決定について 等
- 1月30日 ・富津市学校給食施設整備の指針（案）に係る提言について
・富津市文化財第8次指定について 等

- 2月20日 ・富津市一般会計予算教育費歳入歳出3月補正予算について
- ・平成26年度富津市一般会計予算教育費歳入歳出予算について
- ・非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- ・富津市社会教育委員に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- ・退職教職員に対する富津市教育委員会感謝状の贈呈について 等
- 3月27日 ・富津市退職教職員感謝状贈呈式
- 3月27日 ・富津市学校医の委嘱について
- ・富津市学校歯科医の委嘱について
- ・富津市学校薬剤師の委嘱について
- ・富津市文化財審議会委員の委嘱について
- ・富津市教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則の制定について
- ・富津市教育委員会事務局職員の職の設置に関する規則の一部を改正する規則の制定について 等

(2) 教育委員協議会 ……事務局とのフリートーキング等

- 7月 2日 富津市第7次市指定文化財視察
- 11月28日 平成26年度教育費当初予算要求方針及び概要について
- 3月27日 平成24年度施設整備計画の事後評価について

(3) 教育委員の研修等

- 5月20日 君津地方教育委員会連絡協議会総会
- 5月27日 千葉県市町村教育委員会連絡協議会定期総会並びに特別講演会
講演 「千葉県教育の課題
～教育委員会として、今、何をしなければならないか～」
- 9月25日 千葉県市町村教育委員会連絡協議会第1回教育委員研修会
 - ① 全体会 (パネルディスカッション)
テーマ 「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」
～社会が人を育み、人が社会をつくる好循環～
 - ② 分科会 ・「小学校の外国語活動について」
 - ・「実践、実習、現場体験に重点をおいたキャリア教育の推進について」
 - ・「いじめや不登校に対する取り組みや対応について」
- 1月29日 千葉県市町村教育委員会連絡協議会第2回教育委員研修会
講演 「地域社会が支える新しい学校像～学校基本法第13条をめぐって～」

(4) 学校訪問

- 10月 4日 富津小学校
- 24日 竹岡小学校
- 28日 佐貫中学校
- 経営概要説明・授業参観 等

Ⅱ. 点検・評価

1. 学校教育の充実

『富津市第3次基本計画』の施策目標と到達点

指 標 名	平成21年度	平成27年度 (目標値)	平成25年度 (到達点)
きめ細かな指導のために配置された指導員数	特別支援教育指導員 3人 外国人指導助手 (ALT) 3人 自立支援指導員 4人	8人 4人 9人	5人 3人 4人 英語指導員 3人 指導補助教員 5人
小中学校校舎等の耐震化率	60.7%	100%	100%

(1) 庶務課の取り組み	教育委員会の自己評価 A
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校施設耐震化事業 (185,766,000 円) 工事請負費 (178,269,000 円) 委託料 (7,497,000 円) ・ 学校施設整備事業 (20,782,090 円) 工事請負費 (18,438,000 円) 委託料等 (311,390 円) 用地取得費 (2,032,700 円) ・ 学校教育振興費 (25,277,705 円) 理科教育振興備品 (1,365,000 円) 教材備品 (4,269,648 円) 図書備品 (2,754,453 円) 等 	
<p>② 25年度の取り組みの概要と効果(成果・課題等)</p> <p>学校施設の耐震化は、24年度学校施設環境改善交付金(国の東日本大震災復興特別会計予備費分)を活用した繰越事業として、大貫小の普通教室棟(増築棟)、湊小の屋内運動場、佐貫中、天羽中の技術室棟の4校4棟の耐震補強工事が予定通り実施できた。その結果、市内全ての小・中学校校舎等の耐震化が近隣市に先駆け終了した。</p> <p>学校施設の整備は、竹岡小、天神山小の電気設備改修工事、湊小のプールろ過装置交換工事、佐貫小、湊小の小荷物昇降機改修工事を実施した。また、市内小・中学校全教職員に校務用パソコンを配備するとともに、校務サーバを集約してデータセンター化することが出来た。</p> <p>学校備品関係では、小・中学校で交互に実施している理科教育備品の購入は、理科教育施設整備費等補助金を活用し、25年度は中学校を整備した。また、教材・図書備品の購入は、経常経費の削減を目指しつつ、学校からの要望をできる限り尊重して対応した。</p>	
<p>③ 今後の取り組みの方向性(改善策等)</p> <p>学校施設の耐震化については『第3次基本計画』に基づいて策定した『前期実施計画』どおり、25年度をもって市内全ての小・中学校校舎等の耐震化が近隣市に先駆け終了した。</p> <p>今後は、第3次基本計画にあるように安全・安心な教育環境づくりのため、学校再配置構想の検討状況との整合を図りながら、天井材や外装材等の非構造部材の耐震化及び老朽化施設解消に向けて状況の把握をするとともに、適切な計画の策定、改修を進める。</p>	

(各課等が協力して行う教育委員会全体に関わる取り組みのため、庶務課の後ろに掲載。)

教育かわら版の発行

教育委員会が日頃行っている業務等について、市民に理解して頂くために教育かわら版を20年度から発行している。25年度も昨年同様に計5号(通刊26号)を区長回覧を通じて全戸配布した。6月発行の22号は、家庭学習のてびき(小学校版)完成、英語指導員大活躍、食べてますか「朝ごはん!」等、8月発行の23号は、子どもたちの安全、新教育委員長の紹介、健康のためにまず一歩♪等、10月発行の24号は、甲州市スポーツ少年団と友好を深めた二日間、ふれあいスポーツフェスタ・市民文化祭開催案内、読書週間に合わせた本の紹介「本と旅する 本を旅する」等、12月発行の25号は、生涯学習推進大会開催案内、ライフサポートファイル「すこやか」の紹介等、2月発行の26号は、体力づくりコンテストで天羽東中学校が毎日新聞社賞を受賞、就学援助制度・育英資金制度の紹介等、多種多様な内容の紹介に努めている。

財政収支改善策による経常経費削減のための検討は必要だが、今後も引き続き内容の充実に努め、発行は続けていきたい。



22号(H25年6月発行)



23号(H25年8月発行)



24号(H25年10月発行)



25号(H25年12月発行)



26号(H26年2月発行)

(2) 学校教育課の取り組み	教育委員会の自己評価	B
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私立幼稚園就園奨励事業 (33,016,900 円) ・要保護及び準要保護児童・生徒就学援助事業 (13,156,756 円) ・特別支援教育児童・生徒就学援助事業 (1,313,598 円) ・学校給食事業 (188,319,826 円) ・学校給食管理運営事業 (127,083,676 円) ・特別支援教育指導員 (6,784,017 円) 		
<p>② 25年度の取り組みの概要と効果(成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私立幼稚園就園奨励事業 市内に住所を有する補助金該当保護者の子351人(前年度比±0人)が通う、市内外の私立幼稚園8園の設置者に補助金を交付し、幼児教育の振興を図った。 ・要保護及び準要保護児童・生徒就学援助事業 準要保護児童・生徒として181人(前年度比+7人)を認定し、学用品費・給食費・児童への通学費補助・医療費等の援助を行った。また、要保護児童・生徒については、医療費1人・修学旅行費1人の援助を行い、併せて保護者の経済的負担の軽減を図った。 ・特別支援教育児童・生徒就学援助事業 特別支援学級在籍の児童・生徒33人(前年度比±0人)を認定し学用品費・給食費等の援助を行った。 ・学校給食事業 2共同調理場及び3単独校調理場で年間190日以上実施し、延べ632,155食を配食して児童・生徒の心身の健全な発達と学校における食育の推進を図った。また、給食で提供する主な食材の放射性物質検査を行い、検査した延べ68品目全てで放射線は「不検出」だった。 ・学校給食管理運営事業 第3次基本計画で検討することとなっている給食施設の統廃合について、学校給食運営委員会より提言を受け、「富津市学校給食施設整備の指針」を策定した。また、調理業務、配送業務等の業務委託の実施及び施設設備の老朽化更新を図った。 ・特別支援教育指導員 通常学級で過ごす特別支援を必要とする児童・生徒の支援のため、5人(前年度比+1人)の指導員を非常勤で雇用し延べ6校に派遣した。配置の効果は非常に大きく、学校からも増員に向けた切実な要望が寄せられている。 ・その他 学校と共に通学路の安全点検を行い、危険箇所について道路管理者、警察と連携しながら対応策を講じた。 また、児童・生徒の健全な育成と各種事故防止を図るため、学校と警察並びに教育委 		

員会が学校警察連絡委員会を組織している。25年度も連携を密にし、互いに協力して指導の万全を期した。

『富津市小・中学校防災計画（震災）暫定版』を作成し、小・中学校の震災対応にかかる情報の提供、防災計画の見直しに努めた。

③ 今後の取り組みの方向性（改善策等）

- ・私立幼稚園就園奨励、要保護及び準要保護児童・生徒就学援助、特別支援教育児童・生徒就学援助事業

三事業とも市の財政負担が高まる傾向にあるが、幼児教育・学校教育の振興のため、予算の確保に努める。

- ・学校給食事業

安全・安心で安定した給食の実施に向け、調理従事者研修の充実、食材の安全確保、食育の推進に努める。また、給食費未納者に対しては、今後も例規に基づいた対応を実施する。

- ・学校給食管理運営事業

調理場の統合等について、「富津市学校給食施設整備の指針」に基づき、第1期計画の推進を図る。また、統合先の施設設備も老朽化や耐用年数の経過した機材が多いことから、第2期計画を視野に入れて計画的な更新に努める。

- ・特別支援教育指導員

25年度には1人が増員され、5人を6校に派遣した。今後も『第3次基本計画』に基づいてさらなる充実に努める。

- ・小・中学校再配置構想の推進

保護者・地区市民と共に検討を重ねることで、富津市小・中学校再配置構想の趣旨の周知・理解を進めてきた。今後も適正な学校規模の維持に向け努力する。

- ・通学路の安全点検

- ・定期的な通学路の点検を実施する。
- ・関係機関（道路管理者・警察・学校）との連携体制の構築に努める。

(3) 教育センターの取り組み	教育委員会の自己評価	A
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修推進事業 (140,990 円) ・学力向上推進事業 (10,328,391 円) ・外国語指導助手配置事業 (11,560,500 円) 		
<p>② 25年度の取り組みの概要と効果(成果・課題等)</p> <p>教職員研修推進については、夏季教職員研修会を10講座、PC研修会を4講座開催し、322人(前年度比+20人)の参加者があった。また、市教職員全体研修会を実施し、東海大学教授小澤治夫氏より「子ども期における体力と学力の関連」と題して講演をいただいた。階層別研修としては、新規採用教職員研修会、指導補助教員等研修会、2年目教員研修会、研究主任研修会、生徒指導担当者研修会、特別支援教育コーディネーター研修会、管理運営研修会(教頭・教務主任対象)等を実施した。特に新設の指導補助教員等研修会には、多くの講師の参加もあり、正規採用を目指す者たちの貴重な研修の場ともなった。その他の研修でも専門的な立場からの示唆や実践例の紹介・解決方法の提言などをしていただき、教員のスキルアップにつながった。</p> <p>また、学校からの要請に応じ、指導案作成の助言や校内授業研修会講師として指導主事・教科指導員等が、延べ50回程度の学校訪問を行った。</p> <p>学力向上推進事業については、基礎学力(読み・書き・計算)・学ぶ力・学ぼうとする力の三つの力を相互に関連させながら確かな学力を身につけさせていくことを推進した。少人数指導を推進するため指導補助教員5人(前年度比+1人)を、小学校2校、中学校3校に配置し、授業中の個別指導や適応指導教室での学習支援を行った。増員により、個に応じた指導の機会を増やすことができた。また、学力向上推進委員会を組織し、基礎基本の定着に向けた学習の充実・家庭学習の推進・外国語活動と英語科の効果的な実施方法を中心に具体的に推進すべきことの検討を行った。</p> <p>25年度は下記の事項を中心に取り組んだ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 国語基礎学習ドリルの配信 ② ふっつ家庭学習の手引き(小学生版)の配布 ③ 小学校外国活動充実のための手だての広報 <p>外国語指導助手配置事業については、業務委託により3人のALTを雇用し、全小・中学校において隔週で指導を受けられるよう配置した。更に小学校の外国語活動には3人の英語指導員を雇用し、ALTとともに学級担任の指導を補助した。また、より活用しやすい雇用形態についても検討をした。</p> <p>生徒指導・教育相談体制として、自立支援指導員4人を小・中7校に、適応指導相談員2人を適応指導教室に配置した。中学校における準長欠者は大幅に減少している。</p> <p>県から派遣されたスクールカウンセラーを、中学校5校に配置し、延べ1,600人を超える相談活動を行った。心療内科の専門医による相談は、8件、教育センターへの電話相談は8件であった。</p>		

③ 今後の取り組みの方向性（改善策等）

教職員研修推進については、今後とも教育現場のニーズや今日的な課題に応じた研修の実施に努める。特に若年層の育成を意識した研修を充実させる。

学力向上推進事業については、「ふつつ家庭学習の手引き」、「体力向上プログラム」、「小学校基礎学習ドリル（算数・国語）」の財産を生かし、より活用が充実する方策を検討していく。事業を推進する上で、家庭（地域）・学校・教育委員会が連携して、児童・生徒の学力向上が図れるよう配慮する。

外国語活動では、雇用形態を委託から派遣に変更し、学校において、より指導しやすい体制を整えていく。また、社会科副読本の改訂に向け、富津を愛する子どもの育成を念頭に編集を開始し、地域学習に寄与できるようにする。

学習面ばかりでなく、センター職員が、きめ細かな学校訪問に心がけ、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、特別支援教育、生徒指導、教育相談といった側面からも支援をしていく。

○平成 25 年度夏季研修講座より（道徳教育研修）



外部評価者（Ⅰ）の評価

B

意見

- ・国における教育委員会制度の変革への対応が今後の重要課題になることが予想されます。そのため、国の動向を注視しつつ、情報収集に努め、余裕を持って対応できるようにしてほしいと考えます。
- ・庶務課、学校教育課、教育センターの何れもその課題は十分認識しており、方向性が明確になっていることは、市民の一人として安心できます。最大の課題の一つである少子・高齢化の解決に向けて、自治体における「教育分野」が果たす役割には大きなものがあります。学校施設の非構造部材の耐震化をはじめ、施策の効果を向上させるために、今後も財源・予算の確保に向け努力を重ねていくことを望みます。
- ・給食調理場の統合、小中学校再配置構想については、予算の確保・地域住民や保護者、児童生徒の理解と協力など、解決すべき課題が山積しているものと推測できます。ハードワークが予想されますが、着実な施策展開を期待しています。
- ・「教育かわら版」は、富津市の特色ある取り組みです。今後も継続して情報提供に努め、市民の理解と信頼が高まるよう努力願います。

外部評価者（Ⅱ）の評価

A

意見

- ・学校施設の耐震化が25年度をもってすべて終了したことは、大いに評価できる。今後は、老朽化している校舎の解消に向け、計画的に工事を進めてほしい。
- ・教職員への校務用パソコン配備が終了したことで、ようやく他市に近づいたかという思いがある。長い間、教職員は自前のパソコンで校務の仕事をしてきたが、個人情報保護の面からもそれが解消できよかったと思う。厳しい財政状況の中で配備に努力したことは認めたい。
- ・通常学級在籍で特別支援を必要とする子どもの指導に苦慮している学校・学級が多くある中で、前年度より1名増の特別支援教育指導員の役割は大きい。今後も、一人一人の子どもが落ち着いた環境の中で学べる教育の場を実現できるよう、更なる指導員増を望みたい。
- ・食材の安全性に配慮した学校給食事業が運営されている。26年度は、調理場統合等について第1期計画の推進が図られる。将来を見据えた計画とは言え、予算面に縛られすぎて給食本来の目的を失わないように、細心の注意を払って進めてほしい。
- ・ALTの雇用形態を委託から派遣に変更していく改善策が示されており、方向性としては賛成である。このことによって学校は、より指導しやすい体制を整えていけるものと期待している。
- ・若年層の育成を意識した研修の充実のため、研修内容の更なる充実をお願いしたい。特に、講師は力量のあるベテラン教諭や退職教諭も活用し、人材育成に尽力してほしい。
- ・全体的に前年度より前進しているので、今後も成果に結び付く取り組みを期待している。

2. 生涯学習の充実、青少年健全育成の推進、文化・芸術活動の推進、文化財の保護と活用

『富津市第3次基本計画』・『富津市生涯学習推進計画』の施策目標と到達点

指 標 名	平成21年度	平成27年度 (目標値)	平成25年度 (到達点)
市民等アンケート「学習やスポーツなどの活動をしている市民の割合」	42.5%	50.0%	—
富津市生涯学習推進大会参加者数	525人	2,800人 (平成23~27年度累計)	1,932人 (平成23~25年度累計)
市民等アンケート「生涯学習活動の推進」の満足度	30.6%	35.0%	—
人材バンク「まちの先生」の利用件数	4件	20件	82件
図書利用冊数	34,395冊	46,000冊	26,257冊
市民等アンケート「青少年の健全育成」の満足度	24.7%	30.0%	—
家庭教育学級参加者の数	782人	890人	754人
市民等アンケート「芸術・文化の振興」の満足度	28.1%	30.0%	—
指定・登録文化財の件数	79件	84件	85件
史跡見学会・講演会参加者数	597人	600人	652人
市民文化祭参観者数	14,692人	21,000人	14,608人
公民館・市民会館利用者数	130,540人	146,000人	122,289人
埋立記念館入館者数	3,806人	5,000人	1,829人

(4) 生涯学習課の取り組み	教育委員会の自己評価 B
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習推進事業（697,970 円） ・図書館費（4,090,686 円） ・移動図書館事業（1,440,180 円） ・子ども会活動事業（342,746 円） ・青少年相談員活動事業（882,085 円） ・青少年問題協議会事業（57,970 円） ・富津市子どもセンター設置事業（243,000 円） ・家庭教育支援事業（162,855 円） ・市内遺跡発掘調査事業（2,206,397 円） ・弁天山古墳石室覆屋修復事業（2,310,000 円） ・史跡案内板・説明板設置事業（93,975 円） 	
<p>② 25年度の取り組みの概要と効果（成果・課題等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習推進事業 <ul style="list-style-type: none"> 2月2日に第14回富津市生涯学習推進大会を開催した。541人（前年度比-316人）の参加者があった。講師は武田邦彦氏、演題「うまくいかないことが楽しい」であった。 ・図書館費・移動図書館事業 <ul style="list-style-type: none"> 市内16ステーションを月2回の割合で移動図書館の巡回サービスを実施したが、前年度と比較して特に小学校のステーションの利用冊数が減少した。小学校の利用冊数の減少は、移動図書館車の搭載図書に新味がないことと、巡回時間と業間休みがうまく合わなかったことによると考えられる。 ・子ども会活動事業 <ul style="list-style-type: none"> 子ども会活動及び組織の充実を図るため、各種事業をはじめ、ジュニアリーダー研修会・育成者講習会を実施した。 ・青少年相談員活動事業 <ul style="list-style-type: none"> 青少年のつどい大会、文化祭の協力（なんでもヤリーナ20分・模擬店）、新年子ども大会、キャンプ大会研修会を実施した。 ・青少年問題協議会事業 <ul style="list-style-type: none"> 行政・学校及び各種市民団体代表により警察や学校で把握している事例を中心に協議及び情報交換を行い青少年の健全育成に努めた。 ・富津市子どもセンター設置事業 <ul style="list-style-type: none"> 子どもの地域における様々な体験活動を充実させ、家庭教育を支援するため、体験活動の機会や家庭教育の支援に関する情報を収集し、子ども・体験・ボランティア情報誌を発行し5,800部を市内小・中学校・幼稚園・保育所（園）に配布した。 ・家庭教育支援事業 	

富津小・大貫小・吉野小・天神山小・佐貫中・天羽中で家庭教育学級を開催した。
参加者は754人（前年度比-494人）であった。

・市内遺跡発掘調査事業

植ノ台遺跡第7地点・南砂除遺跡・飯野陣屋三の丸跡の計3か所の発掘調査を実施するとともに、24年度に調査した飯野陣屋本丸跡における2地点の整理作業を実施した。

・弁天山古墳石室覆屋修復事業

国史跡・弁天山古墳の石室覆屋の老朽化に伴い、引戸等を中心とした破損箇所の取替工事を実施した。

・その他文化財関係事業

文化財周知板設置事業では、木造不動明王坐像（安国寺）、銅造十一面観音坐像懸仏（同寺）の周知板老朽化に伴う建替えの外、富津陣屋跡、竹岡のヒカリモ発生地での新設を行った。

高宕山サル被害防止事業では、老朽化した電気柵の改修、発信器の装着、T-1群・T-2群・石見堂群の行動域の調査を行った。

内裏塚古墳群など市内の史跡見学会や出前講座・講演会などへの参加者は652人（前年度比-255人）であった。

③ 今後の取り組みの方向性（改善策等）

生涯学習推進事業については、事業を継続し推進していく。

移動図書館事業は、利用者が前年度に比較して減少しており、ステーションの見直しと民間施設を含めた施設利用者への貸出文庫を推進する。また、図書貸出システムを導入し、利用者の利便性とサービスの向上に努める。

青少年問題協議会については、年1回の開催であるが、関係団体のより綿密な連携を図るように努める。

富津市子どもセンター事業については、情報提供誌やホームページはもとより、多様な情報媒体を通じて子どもや保護者へさらに情報発信するように努める。

家庭教育支援事業は、現在6校の実施だが、より多くの学校が参加できるよう働きかける。

各種開発から埋蔵文化財を守り、場合によっては発掘調査による記録保存の策を講じるなど保存に努める。

市内の文化財周知板の整備を進め、老朽化に伴う更新のほか、指定物件以外でも重要性の高いものについては、民間からの協力も得て説明板の設置に努める。

史跡等公有地化整備事業として、引き続き内裏塚古墳単体の公有地化を進めるとともに、内裏塚古墳群全体としての整備方針を検討し、計画を策定する。

その他文化財関係事業として、市の歴史や文化財に関して市のホームページの充実を図るなど広報活動に努める。また、高宕山のサル被害防止事業では、発信機の装着個体を増やし、指定地周辺の群数や頭数を明らかにし、管理計画を策定する。

(5) 中央公民館の取り組み	教育委員会の自己評価	B
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中央公民館管理運営事業 (13,612,074円) ・ 市民文化祭事業 (1,358,223円) ・ 中央公民館学級・講座関係活動事業 (911,531円) ・ 施設整備事業 (2,399,250円) 		
<p>② 25年度の取り組みの概要と効果(成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民文化祭事業 <p>富津市民文化祭実行委員会の企画・運営により市民自ら積極的に運営し、生涯学習活動の成果を発表し、親睦と融和を図り、豊かな文化の向上と創造の心を養う文化祭となるよう努めた。</p> <p>11月1日から4日まで総合社会体育館・富津公民館・中央公民館・市民会館の4会場で実施し、2,011人(前年度比-156人)の出席者で3,082点(前年度比+35点)の作品、出演者2,112人(前年度比+345人)、参観者延人数は、14,608人(前年度比-410人)であった。なお、毎年事業の実施に多くの関係者の協力を得ているが、内容的に毎年同じようなものになりがちで、参加者が限られる傾向もある。</p> ・ 学級・講座事業 <p>対象別(青少年・婦人・成人・高齢者等)や課題別(歴史文化・工芸・健康等)の18(前年度比±0)の学級・講座を開設した。新規の学級・講座として「鉄道文化歴史講座」「プリザーブドフラワー教室」を行い、学級・講座全体の開催回数は160回(前年度比-1回)、参加延人数は2,211人(前年度比-390人)であった。</p> ・ 施設整備事業 <p>非常用照明設備改修工事を実施し、バッテリー内蔵型非常用照明を館内の47か所に設置した。</p> <p>また、ホール内の自動火災報知設備修繕工事を実施し、停電や火災等非常時における公民館利用者の安全性を図った。</p> 		
<p>③ 今後の取り組みの方向性(改善策等)</p> <p>市民文化祭事業は、実行委員会で文化祭実施後に毎年行う反省会の内容を次年度に生かして、より充実した市民文化祭となるよう取り組んでいく。</p> <p>学級・講座事業は、市民の生活課題や地域社会の共通課題を把握するとともに、多様化している市民のニーズに対応した学級・講座を開設し、学校や地域の各種団体等と連携し、誰もが参加しやすい環境づくりを図る。</p> <p>中央公民館は、昭和47年度に建設された施設であり、老朽化に伴い改修の必要な箇所は多いが、財政状況を踏まえつつ計画的な施設整備に努める。</p>		

学級・講座開催状況

平成26年3月31日現在

No.	講座の名称	開催回数	参加延人員	講座の主旨と内容
1	ピッコロ学級	8	176	幼児の心身の発達、健康についての講義や移動学習、集団での遊びの実習。
2	シルバー生きがい学級	6	154	高齢者がいきいきと生活できるように、健康についての講義、軽スポーツ・レクリエーションや実習、社会見学等を交えながら学習していく。
3	さわやか女性セミナー	10	231	暮らしに役立つ課題や社会情勢などについて、見学、講義、実践を行いながら学習する。
4	折り紙教室	9	71	伝承折り紙から創作折り紙まで、アートとしても楽しめる折り紙の作品づくりを学ぶ。
5	はつらつウォーキング教室	9	182	ウォーキングのコツ、注意点及び効果などを学び、正しく美しく快適に歩くことにより、心身の健康増進をはかる。
6	読み聞かせボランティア入門講座	4	24	読み聞かせボランティアの未経験者を対象に本の読み聞かせの技術について実践を交えながら学習していく。
7	携帯電話の使い方教室	6	61	中高年を対象に携帯電話を気軽に利用出来るようにし、生活の利便性を拡大する。
8	外国人のための日本語講座	23	271	在日外国人が日本で生活するうえで言葉の壁を少しでも減らし、地域の人とのコミュニケーションがとれるようにする。
9	こどもチャレンジ教室	5	163	創作や体験を通じて自発性、活動性、創造性を育てる。
10	中国語入門講座	17	112	日本の隣国である、中国の言語と日常会話を学び中国の伝統文化等をあわせて学習する。
11	はじめてのクラシックギター教室	11	106	クラシックギターの持ち方から演奏まで、初心者のために1から学習する。
12	いきいき健康体操教室	9	202	自分の体の状態と弱点を知り、身の周りにある用具を使って、弱点を克服する体操を学んだり、グラウンドゴルフ・レクゲームを行ったりして心身の健康増進を図る。
13	アロマリフレッシュ教室	4	22	植物に由来する自然の香りを生活に取り入れ、心身の健康や美容の増進を図る。
14	こども折り紙教室	4	80	親から子へ、子から孫へと受け継がれてきた日本の伝統工芸折り紙を楽しむ。
15	男の悠遊教室	9	75	男性を対象に日常的に習慣化出来る体操の習得、料理・園芸などの体験、健康等をテーマにした講演を取り入れ、心身の健康増進を図る。
16	初心者のためのクッキング教室	9	47	初心者の若い人を対象とした講座。体にやさしい健康的な料理の作り方をベテラン講師から学ぶ。
17	鉄道文化歴史講座	8	103	千葉県の鉄道に実際に触れながら、日本の産業と文化の歩みを学ぶ。講師は鉄道ジャーナリスト。
18	プリザーブドフラワー教室	9	131	生花に特殊加工を施し、生花の風合い、みずみずしさ、ソフトな感触を長時間保つ事が出来る花であるプリザーブドフラワーは人気が高まっており、初心者の方でも気軽に楽しみながらさまざまなアレンジメントを学ぶ。
	合計	160	2,211	

(6) 富津公民館・埋立記念館の取り組み	教育委員会の自己評価	B
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富津公民館管理運営事業 (21,998,515円) ・成人式事業 (797,895円) ・富津公民館学級・講座関係活動事業 (461,988円) ・埋立記念館管理運営費 (6,124,646円) 		
<p>② 25年度の取り組みの概要と効果(成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人式事業 <p>新成人を祝って、平成26年1月12日に開催し、新成人の意見発表のほか記念品の贈呈等を行った。中学3年生時に本人が書いた「二十歳への手紙」はこれまで事前に届けていたが、今年は式典の中で披露し、後日、当日の集合写真と共に郵送した。</p> <p>今年の新成人該当者は504人で、内389人が式典に出席し、出席率はこれまでとほぼ同程度の77.2%であった。</p> ・学級・講座事業 <p>対象別(婦人・成人・高齢者等)や、課題別(教養・歴史文化・工芸・園芸・健康等)の13学級・講座(前年度比-1講座)を開設した。今年度は、新たに「自分史作り入門」を行い、全開催回数は102回(前年度比-4回)、学級・講座全体の参加延べ人数は2,118人(前年度比-41人)であった。</p> ・施設整備 <p>受電設備交換修繕(PASケーブル交換)や空調機の冷温水発生機修繕(点火棒)を行った。また、埋立記念館の入り口ドア交換修繕を行い、利用者の利便を図った。</p> 		
<p>③ 今後の取り組みの方向性(改善策等)</p> <p>成人式の記念品として、式典会場での全体集合写真を贈呈し好評を得ていることから、今後も可能な限り継続する。</p> <p>式典の内容等については、毎回、公民館運営審議会等で意見を伺いながら工夫に努めているが、今後も適宜検討を加えていく。</p> <p>富津公民館は、建築後29年が経過し、老朽化による設備故障等の発生頻度が年々高まる傾向にあるが、館の運営や事業に支障をきたすことのないよう、日常的な施設の保守管理に努めるとともに、財政状況を踏まえた長期改修計画等を策定した中で、施設整備に取り組む。修繕工事を行った埋立記念館については、入館者数の増加に向け、広報等に努める。</p> <p>学級・講座事業については、今後も事業内容や学習手法等を十分検討し、利用者や各種団体等と連携して、誰もがより参加しやすい環境づくりを進め、市民の学習意欲の向上と地域文化の発展に努める。</p>		

学級・講座開催状況

平成26年3月31日現在

	講座の名称	開催回数	参加延人員	講座の主旨と内容
1	高齢者教室	7	255	年齢を重ねても健康で充実した生活を送るため、幅広い知識や教養、健康増進法などについて学ぶ。
2	女性の趣味・教養講座	7	103	女性の教養や趣味を広げるきっかけとなる学習をする。
3	園芸教室	10	226	花や樹木の手入れ、管理方法から、草花の種からの育て方、鉢の寄せ植え、樹木の移植、用土作りなど、園芸技術を学習する。
4	男の料理教室	8	171	手軽に作れる日常の惣菜など、初歩的な調理技術と酒の肴など、男性ならではの実践的な料理づくりを学ぶ。
5	東京湾学講座	14	502	富津岬を中心に東京湾岸の歴史や文化、自然などについて、幅広い知識を学び、また、探査会を実施し学習していく。
6	やさしい介護入門講座	7	43	介護の基礎的な知識と実践についての指導を通し、様々なケースの介護知識の習得と体験を通して障害者等の介護法を学ぶ。
7	健康スクール教室	8	176	自分でできる運動を中心に、日常的に体を動かす楽しさを学ぶ。
8	わらべ歌遊びと共育ち教室	7	123	乳幼児と保護者を対象にして、子育ての中に、わらべ歌遊びを取り入れ、親子のふれあいを深める。
9	韓国語教室	16	273	日本の隣国である韓国の言語と日常会話を学び、韓国の伝統文化についても、併せて学習する。
10	大人チャレンジ教室	1	17	日常生活の中では、なかなか体験できない伝統文化・技術などにチャレンジする。
11	エコパッチワーク教室	7	116	エコ、リメイクの意識を高めるため、古着の布を組み合わせて使用し、パッチワークを学ぶ。
12	ウォーキング教室	5	72	熟年層を対象にウォーキング、体操を取り入れ、肥満や運動不足からくる生活習慣病の予防、ストレスの解消を図る。
13	自分史づくり入門短期講座	5	41	自分史づくりの魅力を気軽に学ぶ事が出来る短期講座。
	合計	102	2,118	

(7)市民会館（峰上地区公民館を含む）の取り組み	教育委員会の自己評価	B
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民会館管理運営事業（28,405,501円） ・ 市民会館文化事業（2,000,000円） ・ 市民会館学級・講座関係活動事業（505,400円） ・ 峰上地区公民館管理運営事業（1,120,574円） 		
<p>② 25年度の取り組みの概要と効果（成果・課題等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文化事業 <p>隔年実施の富津市民文化事業「ふつつ学びの門」を富津公民館を会場に実施した。ステージと客席が一体となって盛り上がりを見せ、来場した多くの市民から、「感激した、よかった」という感想が多数寄せられた。市民の芸術的感性を養い、活力に満ちた意識の高揚を図ることが出来た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公演：DRUM・TAO 20周年舞台作品「火の鳥」祝祭 ・ チケット売上枚数：820人（前回は2会場で内容を違えて実施、チケット売上枚数926人） ・ 学級・講座事業 <p>対象別（青少年・成人・高齢者等）や課題別（教養・歴史文化・茶道・手芸・健康教室等）17の主催学級・講座（前年度比±0）を開設し、市民に幅広く学ぶ機会を提供し、講座を通じての人づくりや地域づくりに寄与した。なお、今年度新たに「韓国生活文化教室」・「初めての紙バンド手芸教室」を開設した。学級・講座全体の全開催回数は124回（前年度比+3回）、参加延べ人数は2,026人（前年度比+267人）であった。</p> ・ 施設整備 <p>市民会館では、地域住民も通行している東側通路の外灯修繕や、正面駐車場の外灯新設工事、PASS改修工事・南側出入口扉修繕工事・調理室やトイレの水回り等の修繕を実施した。また、峰上地区公民館では、故障した窓鍵の交換や漏水修理等施設の不良箇所の改修を行い安全性の確保に努めた。</p> 		
<p>③ 今後の取り組みの方向性（改善策等）</p> <p>主催事業である学級・講座が学校や地域との交流を深める他、常にフレッシュな内容であるよう努め、新しい年代層や利用者の増加を図る。また、自立が見込める教室・講座は、サークルとして活動を広げていけるよう協力し、新たな教室・講座の開設に努めていく。</p> <p>市民会館については、市民が快適かつ安全、安心、便利に利用できるよう老朽化に伴い必要な部分の改修について財政状況を踏まえつつ、計画的な施設整備に努める。</p> <p>峰上地区公民館については、老朽化の上、木造であるため施設整備等に対する保守点検を徹底し、安全性の確保及び管理運営に支障をきたすことのないよう努める。</p>		

学級・講座開催状況

平成26年3月31日現在

No.	講座の名称	開催回数	参加延人員	講座の主旨と内容
1	歴史探訪講座	9	214	地域の歴史を文化・自然・人物・史跡などから再発見、学習する。
2	韓国生活文化教室	6	32	簡単な日常会話や料理・衣服など韓国の生活文化について料理等の実践を通しながら学ぶ。
3	こどもダンス教室	12	261	リズム感を養いながら音楽に合わせて体を動かし、ヒップホップダンスの基礎を学ぶ。
4	煎茶道講座	8	135	玉露、煎茶、紅茶、番茶の点前を通し、作法・所作を学ぶ。
5	折り紙教室	6	68	指先を使うことにより脳の活性化を図ると共に、多様な和紙を用いて折り紙芸術作品づくりを進める。
6	スローライフ楽塾	9	96	団塊世代を含めた新たなライフスタイルを探求したい人を対象に、インドア、アウトドアを問わず様々な体験を通して学ぶ。
7	健康増進教室	2	66	ハイキングやウォーキングにより、地域探訪をしながら心と体のリフレッシュを図る。
8	バラエティー料理教室	9	161	和洋中華、アイデア料理など幅広い料理作りをし、併せて調理器具の使い方を学ぶ。
9	エコ・スクール	9	113	自然環境・動植物の環境から、ゴミ・リサイクル等の学習や現地視察を行い、幅広く学ぶ。
10	こどもチャレンジ教室	5	87	家庭とは異なる環境で、親子での共同作業や体験を行い、自主性、創造性、社会性を育む。
11	シルバー生きがい学級	9	284	高齢化が進む中、レクリエーションや学習をとおし参加者がふれあえる場を作り、仲間づくりをする。
12	パッチワーク教室	8	62	様々な作品作りを進め、素材選びや布を組み合わせる楽しさを味わうと共に、製法の技術を学ぶ。
13	初めての紙バンド手芸教室	6	80	古紙から再生された環境にやさしい紙バンド（エコクラフトテープ）を使い幅広く作品作りを学ぶ。
14	マネーライフ講座	6	54	難解な経済、金融の仕組みや用語の解説を受けながら、お金の流れや生活設計の仕方など新時代のマネーライフについて学ぶ。
15	和菓子教室	9	214	日本古来から伝わる和菓子作りを基礎から学ぶ。
16	季節の草木染め講座	4	32	四季の中で育った草木を使い、染め物の染料とすることを考えた先人の知恵「草木染め」を学ぶ。
17	初心者向けの3B体操	7	67	初心者を対象に健康で過ごすために、体を鍛えて病気にかけにくくすることを学ぶ。
	合計	124	2,026	

意見

- ・生涯学習の充実等に関する施策展開に数値目標を設定していることは、その効果実現に向け努力していくための有効な手法ですが、その目標数値の到達状況に、一喜一憂することなく、絶えず反省・改善・創意工夫を重ね、質(市民満足度)の向上に向けて不断の努力を重ねていくことが肝要です。人口の自然減・社会減が加速している状況の中、目標数値の到達点を観察すると、職員の努力は評価できるものと思います。
- ・文化財(古墳)の保護と活用に関しては、青堀駅前の「古墳の里 ふれあい館」の完成に伴うボランティアの活用など前進が見られますが、基本的な方向性を示す構想が未策定であり、開発行為など行われる都度、その対応を検討することになり、結果として場当たりの対応になるおそれがあります。多くの古墳が私有地であるなどの問題点はありますが、是非その策定を望みます。
- ・図書管理の電算システム化については、その費用対効果及び財源確保など高度な判断が必要ですが、IC チップ貼付の先行投資が活かされていないため、将来的な汎用性にも配慮しつつ、簡易型システム導入の検討が必要と考えます。

意見

- ・移動図書館事業は利用者が減少しているが、市民サービスの観点から考えると、現時点では継続した取り組みにしていくべきと考える。しかし、20年度まで振り返ってみると、毎年ステーションの見直し等、改善策に述べられているのに変わらないのはなぜか。安易に同じことを記述するだけではいつまで経っても問題解決にはならないと思う。
- ・家庭教育支援事業は、20年度の課題では「すべての学校で実施してもらいたい。」と明記されている。しかし、実施している学校は少ない。それは何故か、学校の事情をしっかりと把握しこの事業存続が本当に有益なものなのか再考した上で、今後の方向性を模索してほしい。
- ・市民文化祭事業は、事業の目的を考え企画・運営されているので一定の成果は達成しているものと思う。しかし、「反省会の内容を次年度に生かしてより充実した取り組みを～」の記述では何をどうしていくのか分からない。せめて一つぐらい具体的な事柄を明記したらどうか。
- ・毎年、あちこちの不良箇所の修繕を行いながら様々な事業開催に努めている。管理する側の苦労は絶えないと思うが、利用者に快適な場を提供できるよう引き続き保守管理に努めてほしい。
- ・成人式事業は、新成人を祝う式典として大事にしたい事業であると捉えている。一昔前は、新成人の参加態度等が問題となり成人式の意義が問われたが、根気よく創意工夫をしながら開催内容の改善をしてきたことが成果につながってきたものと思う。

3. スポーツ・レクリエーションの振興

『富津市第3次基本計画』・『富津市生涯学習推進計画』の施策目標と到達点

指 標 名	平成21年度	平成27年度 (目標値)	平成25年度 (到達点)
市民等アンケート「スポーツ・レクリエーションの振興」の満足度	37.2%	40.0%	—
スポーツ関連の行事参加者数	16,000人	17,700人	15,814人
総合型地域スポーツクラブの数	1か所 <平成22年度>	2か所	1か所

○富津市ふれあいスポーツフェスタ2013



(8) 体育振興課の取り組み	教育委員会の自己評価	B
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会体育振興事業 (6,317,160 円) ・ ふれあいスポーツフェスタ事業 (1,565,905 円) ・ 市体育施設管理運営事業 (30,547,230 円) ・ スポーツレクリエーション推進事業 (354,970 円) 		
<p>② 25年度の取り組みの概要と効果 (成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会体育振興事業 <ul style="list-style-type: none"> 市民がスポーツに親しみ、健康づくり・体力づくりをする中で、豊かな生活が営まれるように各種スポーツイベント等を実施。また、誰でも気軽に参加できるニュースポーツの普及を図るため、スポーツ・レクリエーション推進員のニュースポーツ普及研修会としてペタンクを実施し、中央公民館なのはなさわやかサークルへの講習も行った。* (前年度比) 富津市長杯争奪少年野球大会 154 人 (+4 人) 富津市教育長杯争奪少年サッカー大会 140 人 (±0 人) 第31回F T S少年剣道大会 379 人 (-87 人) 「県民の日」記念第30回グラウンドゴルフ大会 122 人 (+20 人) 「県民の日」記念第30回バドミントン大会 252 人 (-37 人) 第20回F T S杯争奪少年柔道大会 169 人 (+35 人) 第31回F T S杯争奪少年野球大会 132 人 (-18 人) 第19回健康ウォークラリー大会 107 人 (+22 人) 君津地区スポーツレクリエーション祭歩け歩け大会 304 人 (-24 人) 第32回F T S杯争奪インディアカ大会 27 人 (+5 人) 第22回F T S杯争奪ソフトバレーボール大会 34 人 (-12 人) 第19回F T S杯争奪グラウンドゴルフ大会 59 人 (-14 人) 君津地区スポーツレクリエーション祭 (インディアカ・ソフトバレー・グラウンドゴルフ) 56 人 (-2 人) 富津市教育長杯争奪少年野球新人大会 126 人 (-24 人) 第2回ふれあいドッジビー大会 92 人 (-37 人) 第38回ママさんバレーボール大会 131 人 (-37 人) 第31回市民ハイキング 47 人 (H24 中止) 第43回元旦歩こう大会 365 人 (-16 人) 第43回新春バドミントン大会 285 人 (+241 人 H24 は小学生のみ実施) 第26回新春グラウンドゴルフ大会 110 人 (-11 人) スポーツ教室 (毎週土曜日) 4,083 人 (-422 人) 第4回富津市バスケットボールフェスタ 872 人 (-314 人) ニュースポーツ普及研修会 13 人 * 中央公民館なのはなさわやかサークル 30 人 * ・ ふれあいスポーツフェスタ事業 <ul style="list-style-type: none"> 市民の手づくりによる健康づくり、体力づくりを目的に多くの市民がスポーツに親しめるよう開催。今年度は、新たにサッカーのミニゲームや抽選会を実施。また、大 		

会終了後も、反省点等を来年に活かせるよう実行委員会を開催した。

参加者 3,100人 (+400人)

・市体育施設管理運営事業

公益財団法人富津市施設利用振興公社を指定管理者として管理運営を実施し、市民サービスの向上を図った。また、浅間山運動公園の全天候型アスファルト系テニスコートをフットサルにも使用出来る多目的コートに整備した。

総合社会体育館 主体育館 521件 48,575人 (+206件 +9,160人)

小体育館 645件 9,548人 (+94件 +1,463人)

会議室等 50件 770人 (+20件 +104人)

富津運動広場 70件 1,427人 (-18件 -50人)

新富運動広場 134件 13,342人 (-15件 -59人)

浅間山運動公園 テニス等 627件 3,319人 (+26件 +299人)

野球 97件 4,145人 (-10件 -306人)

・小中学校体育施設開放事業

79団体 5,835日 123,881人 (延数) (+3団体 -208日 -6,611人)

・第36回千葉県民マラソン大会

市民等の心身の健全な発達とスポーツ振興、富津市の名産品などの紹介や販売を行うことによる観光振興に寄与することを目的として、千葉日报社と協力して千葉県民マラソン大会を実施。今大会から日本陸上競技連盟の公認大会 (ハーフマラソン・10km) として開催。

エントリー4,625人 (-42人) 完走数3,285人 (-664人)

③ 今後の取り組みの方向性 (改善策等)

・社会体育振興事業

スポーツ推進委員やスポーツ・レクリエーション推進員と連携を図り、各種スポーツイベント等の参加者の増加を図れるよう検討する。

26年度は、ニュースポーツの普及としてこれまで実施してきた「ふれあいドッジビー大会」に加え、25年度にスポーツ・レクリエーション推進員が研修を行った「ペタンク」を「スポーツ教室」で実施する。

・ふれあいスポーツフェスタ事業

大会終了後に開催している実行委員会での反省点を次回に活かし、より充実した大会を開催出来るよう、26年度の実行委員会を早期に立ち上げ準備を進めていく。

・市体育施設管理運営事業

施設の老朽化に伴い各施設ともに補修等が必要となっていることから、計画的に施設の補修を進めていく必要がある。

・千葉県民マラソン大会

26年度第37回大会は、日本陸上競技連盟の公認大会 (ハーフマラソン・10km) であることを一層アピールし参加ランナーの増を図るとともに、より充実した大会を目指し開催する。

外部評価者（Ⅰ）の評価

B

意見

- ・市民の健康の維持増進に向けた社会体育振興の充実は当然必要なことですが、これを発展させ、広義の「まちづくり」に向けた取り組みに対する姿勢の強化が今後の重要課題と考えます。端的な例では、①県民マラソン大会の運営に際し、沿道で太鼓をたたき選手を応援するなど、他の部局・団体とのコラボを発展させる。②事業の種類によっては、市内だけでなく近隣市の住民の参加も認めるなど、交流人口の拡大を図り、富津市の活性化を目指す方法もありますので、検討願います。

外部評価者（Ⅱ）の評価

B

意見

- ・浅間山運動公園のテニスコートをフットサルにも使用出来る多目的コートに整備したことは、スポーツ活動を奨励していく上でプラス面が広がり、今後利用者数増が益々期待できるものと思う。
- ・千葉県民マラソンは、ハーフマラソン・10kmのコースを日本陸上競技連盟の公認として開催でき、より充実した大会となったことは大変喜ばしいことである。
- ・ふれあいスポーツフェスタは、サッカーのミニゲームや抽選会を新たに実施したことが参加者増につながったとすれば、大変嬉しいことである。新たに実施したものが継続できるよう、また更なる内容改善を加えながら、実行委員会の早期立ち上げ準備をお願いしたい。
- ・社会体育振興事業は、他の様々な行事もある中での開催なので、参加人数の多少の増減は致し方ないことと思う。その一方で、毎年恒例の大会は常に安全面に配慮し新鮮な気持ちで緩みない運営をお願いしたい。
- ・小中学校体育施設開放事業は、取り組みの概要が25年度も数値のみの記述なので評価しづらい。紙面上の許可申請だけでなく、時には担当が足を運び現状を把握して使用責任者に指導助言すべきである。